

罪の始まり

創世記3章 1-7節

はじめに

この創世記3章には、人間が罪を犯して、「エデンの園」から追放されるという出来事が書かれています。この出来事から、人類全体に罪が入ったと聖書は教えています。つまりこの創世記3章には、私たち人間の「罪の始まり」の出来事が書かれているのです。では罪は、どのようにして私たち人間のうちに入り込んできたのでしょうか。

1. 悪魔の誘惑の方法

(1)「良いもの」を通して

それは、「悪魔」または「サタン」に誘惑されることを通してです。今日の聖書箇所では、最初の人アダムとエバを誘惑しているのは、「蛇」です。しかし新約聖書の一番終わりの書物『ヨハネの黙示録』を見ると、今日の聖書箇所に出てくる「蛇」は、「悪魔」または「サタン」であると書かれています（黙示録 12：9）。

ですから「悪魔」は、「蛇」を通して、アダムとエバを誘惑したのです。1節を見ると、**「蛇は、神である主が造られた野の生き物のうちで、ほかのどれよりも賢かった」と**ありますから、「蛇」は神様が造られた存在であることが分かります。神様が造られたものは、すべて「非常に良い」ものであると創世記1章の終わりに書かれています。ですから「悪魔」は、神様が造られた「良いもの」を通して、アダムとエバを誘惑しようとしたと言えます。「悪魔」はまず「蛇」を通してエバを誘惑し、次にエバを通してアダムを誘惑していくのです。

「悪魔」の誘惑は、昔も今も変わりはありません。「悪魔」は自分の姿を隠し、「良いもの」を通して、私たちを罪へと誘っていくのです。いかにも「悪いもの」であったら、私たちは最初から警戒します。しかし「悪魔」は「良いもの」を通して、私たちに近づき、私たちを安心させ、私たちを罪へと誘っていくのです。これが「悪魔」の誘惑の第一の方法です。

(2)「神様の印象を悪くさせること」を通して

では「悪魔」の誘惑の第二の方法は、何でしょうか。それは、「神様の印象を悪くさせること」です。蛇は最初、エバに向かってこのように言います。**「園の木のどれからも食べてはならないと、神は本当に言われたのですか」**。創世記2：16-17を見ると、神様がアダムに言われたのは、**「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ」と**いうものでした。つまり神様は、善悪の知識の木以外は、どんな木からでも食べてもよいと言われたのです。神様はアダムと

エバに、多くの自由を与えて、その中で一つだけルールを与えられたのです。しかし蛇はここで、「神様はすべての木から食べてはならないと言われたのですか」と、神様がまるでアダムとエバから自由を奪っているかのように言います。ここには、「悪魔」の狙いがあります。「悪魔」は、このように言うことによって、神様は「厳しいルールを作る方」「自由を奪う方」であるという印象を、エバに与えようとしているのです。

エバは最初、「悪魔」のこの誘惑をいとも簡単に退けます。2節でエバは、「**私たちは園の木の實を食べてもよいのです**」とはっきりと答えています。しかし3節からエバは、「悪魔」の誘惑の影響を少しずつ受け始めていきます。エバは3節で、このように答えます。「**しかし、園の中央にある木の實については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました**」。神様は善悪の知識の木について、「食べてはならない」と言われましたけれども、「触れてもいけない」とは言われませんでした。これは、エバが勝手に付け加えたことでした。おそらく蛇の先程の言葉で、神様は「厳しいルールを作る方」「自由を奪う方」であるという印象を植え付けられていたため、思わず「触れてもいけない」という厳しいルールを勝手に付け加えてしまったのだと思います。

さらにエバは、善悪の知識の木を取って食べてしまった時にどうなるのかということについても、非常に曖昧になっていきます。神様は「取って食べる時、あなたは必ず死ぬ」と言われましたけれども、エバは「あなたがたが死ぬといけないからだ」と神様の言葉を勝手に弱めています。「死ぬといけないからだ」というのは、死なない可能性もあるかのような言葉です。このようにエバは、「悪魔」の誘惑によって、神様の言葉を必要以上に厳しく考えたり、必要以上に緩く考えたりするようになってしまったのです。

蛇はさらに4-5節の言葉で、神様の印象をさらに悪くさせようとします。「**あなたがたは決して死にません。それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです**」。「悪魔」はここで、神様は「意地悪な方」で「嫉妬深い方」であるという印象をエバに与えようとしています。つまり神様は、アダムとエバが善悪の知識の木を食べることによって、神様のようになることを恐れている、アダムとエバが神様のようになったら、自分の地位が脅かされる、だから神様は善悪の知識の木を食べるなと言っているのだ、決して死ぬからではない、ただ神様はアダムとエバに嫉妬しているだけなのだ、と言うのです。このように「悪魔」は、「神様の印象を悪くさせること」を通して、私たちを迷わせ、私たちを罪へと誘っていくのです。

(3)「**本当の事と嘘を織り交ぜること**」を通して

では「悪魔」の誘惑の第三の方法は、何でしょうか。それは、「本当の事と嘘を織り交ぜること」です。蛇は「あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになる」と言いました。この言葉には、本当の事と嘘が織り交ざっています。アダムとエバはこの後、「悪魔」の誘惑に負けて、善悪の知識の木

を食べてしまいますが、7節を見ると、彼らは確かに「目が開かれ」ます。しかし彼らが知るようになったのは、「善悪を知ること」ではなく、「**自分たちが裸であること**」でした。

彼らは「自分たちが裸であること」を知って、「**いちじくの葉**」で「**自分たちの腰**」を覆うようになりました。つまり彼らはここから、自分を隠すことを始め、ありのままの自分で生きられなくなってしまったのです。これは身体的にだけでなく、精神的にも、です。私たちは誰でも、自分のありのままを受け入れられたいと願います。しかし私たちは、自分のありのままの姿を表現することを恐れ、恥ずかしく思うようになりました。それは、私たち人間に罪が入ったからだ聖書は教えています。

(4)「自分で決して命じることなく、人間の意志に任せること」を通して

では「悪魔」の誘惑の第四の方法は、何でしょうか。それは、「自分で決して命じることなく、人間の意志に任せる」ことです。「悪魔」は今日の聖書箇所、何一つ命じていません。「悪魔」は直接的に「食べなさい」と命じたり、「食べなさい」と勧めたりすることは、一切していません。「悪魔」はただ、「良いもの」を通してアダムとエバを安心させ、「本当の事と嘘を織り交ぜながら」「神様の印象を悪くさせた」だけです。最終的にアダムとエバは、自分たちで選んで、自分たちの意志で善悪の知識の木を食べていくのです。

なぜアダムとエバは、自分たちで選んで、自分たちの意志で善悪の知識の木を食べてしまったのでしょうか。それは「悪魔」の様々な誘惑によって、一つの願いが自分たちのうちに芽ばえてきたからです。その願いとは何でしょうか。それは「神のようになりたい」という願いです。「神のようになりたい」という願いは、神様に従う生活から解放されたいということです。神様のように自分で何でも自由に決めたいということです。「悪魔」はアダムとエバに、神様は「自由を奪う方」「不自由にさせる方」という印象を植え付けさせて、神様から解放されたい、自由になりたいという願いを芽ばえさせたのです。そして善悪の知識の木を食べれば、神様から解放されるかのように、神様から自由になれるかのように思い込ませたのです。

しかし彼らの結果はどうだったでしょうか。彼らは、善悪の知識の木を食べた結果、自分を隠すようになり、ありのままに生きられなくなりました。彼らは解放されるどころか、人の視線に縛られるようになったのです。自由になるところ不自由になったのです。

彼らはもともと多くの自由を与えられ、一つだけルールを与えられていただけでした。しかし彼らは「悪魔」の誘惑によって、まるで自分たちが不自由であるかのように思い込まされ、自分たちの意志で、自分たちを本当の意味で不自由にしてしまったのです。

2. イエス・キリストによる回復

聖書によれば、私たちは誰でも、アダムとエバによる罪の影響を受けてこの世に生まれてきます。私たちは生まれながらに罪を持ち、それゆえに自分を隠し、ありのままに生きられない存在として生まれてきます。

しかし聖書は、アダムによって失ったものを回復するために、第二のアダムを神様はこの世に遣わされたと言います。では第二のアダムとは誰でしょうか。それはイエス様です。

イエス様はアダムと同じように、「悪魔」の誘惑に遭われました。イエス様は荒野で「悪魔」から三つの誘惑に遭われました。「**あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい**」(マタイ 4:3)「**あなたが神の子なら、下に身を投げなさい**」(マタイ 4:6)「**もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう**」(マタイ 4:9)という三つの誘惑です。しかしイエス様は、アダムとは違って、どの誘惑にも屈せず、「悪魔」の誘惑に勝利されたのです。

イエス様は十字架に架かれる前夜も、誘惑に遭われました。しかしイエス様は「**わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように**」(マルコ 14:36)という祈りの中で、誘惑に勝利され、十字架へと向かわれたのです。

イエス様は、アダムによって失ったものを、私たちのうちに回復させるために神様から遣わされた救い主であり、第二のアダムです。使徒パウロは、このように言っています。「**こういうわけで、ちょうど一人の違反によってすべての人が不義に定められたのと同様に、一人の義の行為によってすべての人が義と認められ、いのちを与えられます。すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです**」(ローマ 5:18-19)。

私たちは、アダムの子孫として生まれたため、誰もが罪人として、罪を持って生まれてきます。しかし第二のアダムであるイエス様を信じて、イエス様によって新しく生まれるなら、すべての罪が赦されて義と認められ、義人として受け入れられるのです。アダムは私たちのうちに「罪と死」をもたらしましたが、イエス様は私たちのうちに「義といのち」をもたらすのです。

おわりに

神様はアダムに対して、善悪の知識の木を「**取って食べてはならない**」と言われました。しかしアダムによって失われたものを回復するためにこの世に来られたイエス様は、私たちに対して「**取って食べなさい**」(マタイ 26:26)と言われます。では私たちは何を食べるのでしょうか。それはイエス様御自身です。イエス様はこのように言われました。「**わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています**」(ヨハネ 6:51)。

私たちは、アダムによって失われたものを回復するために、イエス様を食べなければなりません。イエス様は私たちの代わりに「悪魔」の誘惑に勝利し、私たちの代わりに十字架において、私たちの罪の罰をすべて受けてくださいました。このイエス様を信じていく時に、私たちは失われたものを回復し、新しく生まれ、罪の連鎖を断ち切ることができるのです。

天におられる私たちの父なる神様

私たち人間は、本来、罪のない者として造られ、非常に良いものとして造られました。しかし自由意志を持つ私たち人間は、悪魔の誘惑によって、自分の意志で罪を犯しました。そ

れゆえに私たちは、神様に対して罪の責任を負わなければなりません。罪の責任と共に、罪の力に縛られて、ありのままに生きることを恐れ、人の視線に怯え、本当の意味での自由を失いました。

しかしあなたは、アダムによって失われたものを回復するために、イエス様をお遣わしになりました。イエス様こそ、悪魔の誘惑に打ち勝ち、十字架と復活によって、私たちの罪の責任を肩代わりし、罪からの自由を与えてくださいました。

どうか聖霊よ。私たちのうちに罪の認識とイエス様への深い信仰を与えてください。そうして私たちを罪の連鎖から断ち切り、私たちを新しく生まれさせ、罪からの自由をお与えください。

これらの祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。